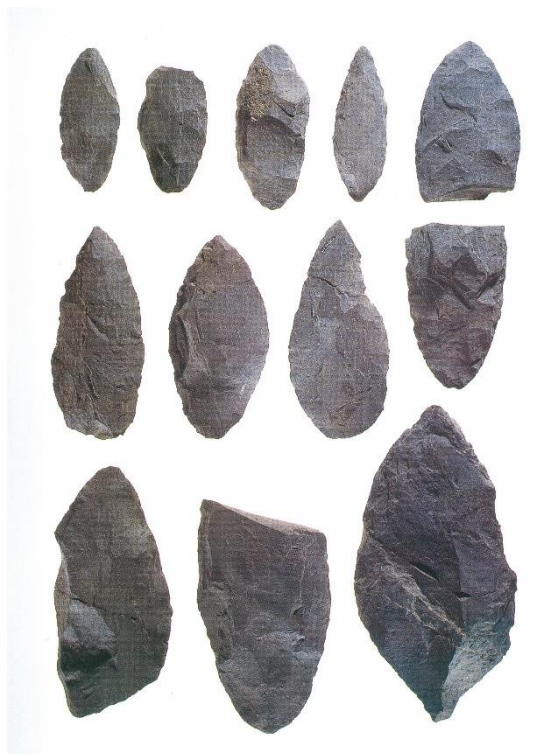


はっふうさんいせきぐんしゅつどひん
八風山遺跡群出土品



八風山 I 遺跡出土石槍



八風山 II 遺跡出土石器群

指 定 市有形文化財 令和 5 年 1 月 26 日

所有者 佐 久 市

八風山遺跡群は佐久市東方の群馬県境に位置し、良質な「ガラス質黒色安山岩」の原産地として知られる八風山の山麓に広がる。発掘調査の結果、八風山II遺跡からは約 36,000 年前の「石刃技術」を駆使したナイフ形石器の素材となる石刃製作跡が発見され、原料から石器製作の残滓に至る石器群が出土した。接合関係から母岩の復元もでき、当時の石器製作工程が明らかになった。また八風山 I 遺跡及び同VI遺跡B地点からは約 16,000 年前の「両面調整技術」を駆使した大型石槍製作跡が発見された。特に後者では石器群が 4 か所に集中して出土し、良好な接合関係から長さ十数cmに及ぶ石槍の完成品を遺跡外に持ち出していた石器製作集団の具体的な行動パターンが復元された。

本資料は良質な石材資源に恵まれた原産地を背景として後期旧石器時代の初頭及び縄文時代への移行期という変革期に発達した石器製作技術と人類の行動パターンの実態を解明する上で高い価値を有する。